

(財)八尾市文化財調査研究会報告 9

# 昭和60年度事業概要報告

1986年 4月

(財)八尾市文化財調査研究会



# 昭和60年度事業概要報告

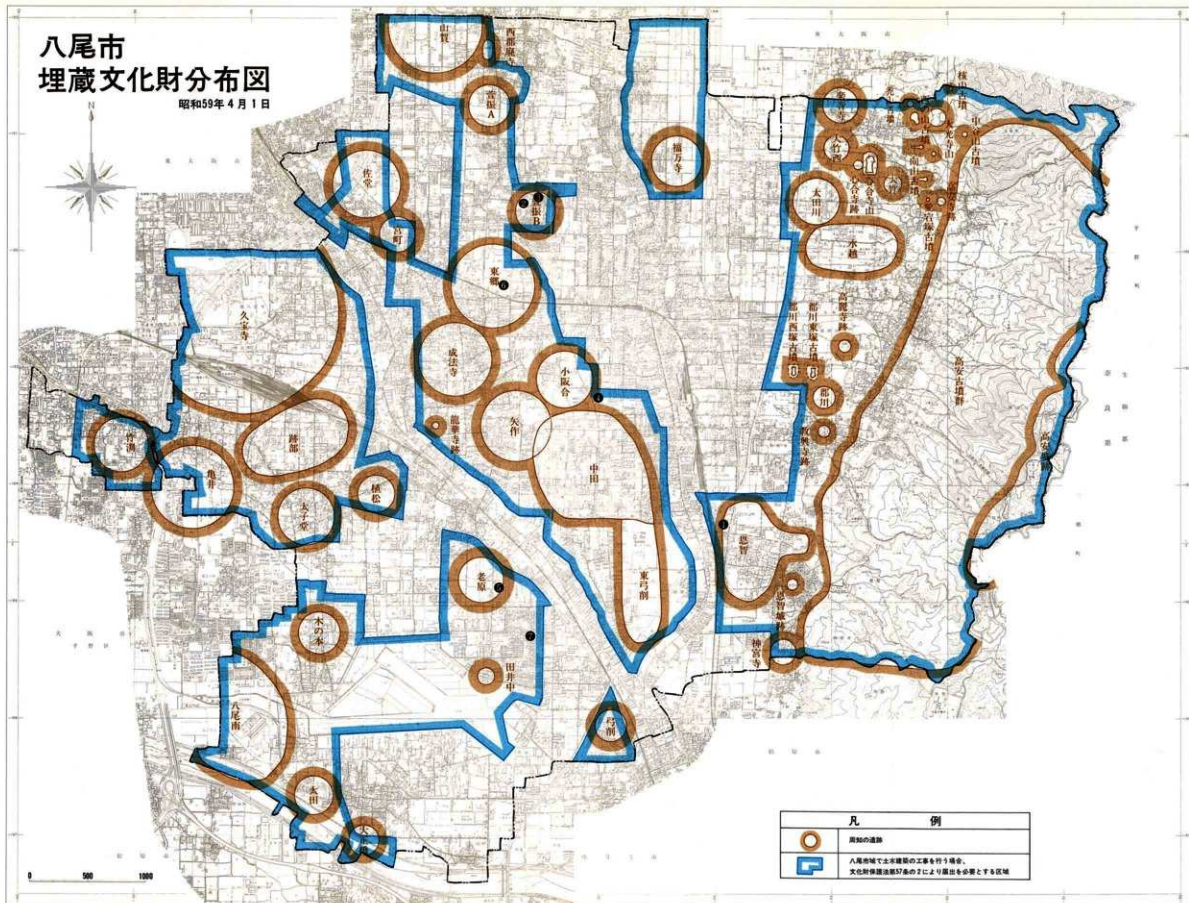




1986年 4 月

(財)八尾市文化財調査研究会

# 八尾市 埋蔵文化財分布図

昭和59年4月1日



凡 例	
	埋蔵文化財
	八尾市域で土佐建設の工事を行う場合、 文化財保護法第37条の2により届出を必要とする区域

## 序 文

河内平野は、北流する大和川の豊かな水量と肥沃な土壌に恵まれた穀倉地で、このような土地柄を背景に、古来より先人の活動の舞台として、しばしば歴史の矢面に立ってきました。この河内平野南部に位置します八尾市域も、最近の大規模な開発に伴う発掘調査で多くの遺跡の存在が明らかになり、現状では市域の半分以上に遺跡が存在している状況であります。

昭和60年度に（財）八尾市文化財調査研究会が、八尾市教育委員会の指示を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の受託件数は7件を数え、総調査面積は9582.6㎡に及んでいます。本年度に実施しました7件の発掘調査も本来は正確な報告書の刊行をもって業務が終了するのが原則であります。現状では本年度以前に累積しています膨大な内業整理業務の消化と発掘調査現場作業に対応するのが精一杯の状況であります。したがって、本年度に実施しました発掘調査の報告書も、一部を除いては61年度中の刊行が危惧されます。しかしながら、発掘調査成果の早急な公表は発掘調査機関にさせられた社会的責務であり、いたずらに公表を遅らせて学問の停滞をまねくことは許されない行為といえましょう。

本書はこのような趣旨に基づき、昭和60年度に実施しました事業の概略をまとめたものであり、八尾市内の文化財、ならびに当調査研究会の業務を少しでも御理解いただければ幸せに存じます。

昭和61年4月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 山 脇 悦 司

# 例 言

1. 本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が昭和60年度に実施した事業についてまとめたものである。
1. 埋蔵文化財の発掘調査の項は、調査担当者（高萩千秋・原田昌則・成海佳子・西村公助）の報告をもとに、成海・原田が検討を加えてまとめた。
1. 本書掲載の地図は、八尾市発行の2500分の1を使用した。埋蔵文化財分布図は、八尾市教育委員会発行（昭和59年4月1日）のものをもとに作成した。
1. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面で、TPと略して記載した。
1. 本書と正報告書の内容が異なる場合は、正報告の内容を正しいものとする。
1. 本書の編集は、成海・原田が担当した。

## 本 文 目 次

埋蔵文化財分布図

序文

例言

I	八尾市文化財調査研究会の概要	1
II	埋蔵文化財の発掘調査	4
1	恩智遺跡（第1次調査 恩智北町1丁目51）	5
2	萱振B遺跡（第1次調査 緑ヶ丘2丁目1）	10
3	萱振B遺跡（第2次調査 緑ヶ丘1丁目17）	15
4	小阪合遺跡（第6次調査 青山町3丁目・5丁目、山本町南8丁目的一部）	22
5	老原遺跡（第2次調査 東老原1丁目11 他）	29
6	東郷遺跡（第20次調査 光町2丁目40 他）	35
7	田井中遺跡（第3次調査 志紀町西3丁目 他）	40
III	その他の事業	45
IV	受贈図書一覧	47

# 挿 図 目 次

1 恩智遺跡 (第1次調査)	
第1図 調査地周辺図	6
第2図 検出遺構平面図	7
2 萱振B遺跡 (第1次調査)	
第3図 調査地周辺図	10
第4図 検出遺構平面図	(折込) 12-13
3 萱振B遺跡 (第2次調査)	
第5図 古墳第1主体平面図	16
第6図 検出遺構平面図	(折込) 18-19
4 小阪合遺跡 (第6次調査)	
第7図 調査地周辺図	23
5 老原遺跡 (第2次調査)	
第8図 調査地周辺図	29
第9図 第1調査区検出遺構平面図	30
第10図 第2調査区検出遺構平面図	31
第11図 第3調査区検出遺構平面図	31
6 東郷遺跡 (第20次調査)	
第12図 調査地周辺図	35
第13図 検出遺構平面図	(折込) 36-37
7 田井中遺跡 (第3次調査)	
第14図 調査地周辺図	40

# 図 版 目 次

1 恩智遺跡(第1次調査)	
図版 一 調査区全景(東から) SD-1・SD-2 検出状況(南から)……………	9
2 萱振B遺跡(第1次調査)	
図版 二 第1調査区全景(西から) 第2調査区第2調査面全景(南から)……………	13
図版 三 第3調査区第2調査面全景(南から) 第4調査区全景(東から)……………	14
3 萱振B遺跡(第2次調査)	
図版 四 第1調査区第2調査面全景……………	19
図版 五 第2調査区・第3調査区第2調査面全景……………	20
図版 六 古墳第1主体検出状況(西から) 同 遺物出土状況(東から)……………	21
4 小阪合遺跡(第6次調査)	
図版 七 C-IV地区全景(南から) C-V地区全景(南から)……………	25
図版 八 C-VI地区全景(南から) 同 遺物出土状況(東から)……………	26
図版 九 47地区第1調査面全景(南から) 同 第2調査面全景(南から)……………	27
図版 〇 48地区全景(西から) 49地区全景(西から)……………	28
5 老原遺跡(第2次調査)	
図版 一 第1調査区全景(北から) 第2調査区全景(北から)……………	33
図版 二 第3調査区全景(西から) 同 SE-3断面(南から)……………	34
6 東郷遺跡(第20次調査)	
図版 一三 調査区全景……………	38
図版 一四 SX-1検出状況(西から) 土壌墓検出状況(南から)……………	39
7 用井中遺跡(第3次調査)	
図版 一五 第1調査区第1調査面全景(東から) 第2調査区第1調査面全景(東から)……………	43
図版 一六 第3調査区第1調査面全景(東から) 第2調査区第1調査面畦畔(南から)……………	44



# I 八尾市文化財調査研究会の概要

## 1 目的

八尾市域の文化財の調査・保存・研究を通じて文化財の保護を図るとともに、文化財の普及啓発を推進し、地域文化の発展に寄与し、永く後世に文化遺産を継承することを目的とする。

## 2 事業内容

- ・埋蔵文化財の発掘調査および内業整理業務の受託
- ・埋蔵文化財以外の文化財の調査研究
- ・埋蔵文化財の調査報告書および文化財に関する図書等の刊行
- ・文化財保護の普及啓発
- ・八尾市教育委員会からの受託業務（彌山楼の公開等）
- ・その他目的を達成するために必要な業務

## 3 設立年月日

昭和57年7月1日

## 4 事務局所在地

大阪府八尾市清水町1丁目2番1号

## 5 役員および組織

理事 14名（理事12名・監事2名）

評議員 14名

理事長—事務局長—  
┌ 事務職員 2名（うち嘱託1名）  
└ 技術職員 4名（うち嘱託2名）

## 6 役員・職員の名簿（昭和61年3月31日現在）

理事長 山脇 悦司 八尾市長  
理事 伊藤 活次 やお文化協会専務理事  
〃 小川 佐小蔵 鯛マックス代表取締役社長

理事	費島 正男	八尾市郷土文化推進協議会会長
"	田代 克己	帝塚山短期大学教授
"	辻合喜代太郎	帝国女子大学名誉教授
"	西崎 宏	八尾市教育長
"	野澤 倫昭	八尾市議会議員
"	古橋 了	星電器製造株式会社取締役社長
"	松浦 慶太	八光信用金庫理事長
"	森岡安治郎	八尾市農業協同組合組合長
"	吉房 康幸	大阪府教育委員会文化財保護課長
監事	谷村 安脩	八尾市民憲章推進協議会会長
"	福島 孝	八尾市収入役
評議員	安積 由高	やお文化協会常任理事
"	浅井 允晶	堺女子短期大学教授
"	阿部 孝	やお文化協会事務局長
"	今川 金治	豊国製油㈱代表取締役社長
"	上井 久義	関西大学教授
"	奥野 俊雄	やお文化協会常任理事
"	櫻井 敏雄	近畿大学助教授
"	棚橋 利光	大阪府立八尾高等学校教諭
"	塚口 義信	堺女子短期大学教授
"	徳丸 義也	八尾市議会議員
"	松井 一雄	八尾市理事
"	三上 幸寿	八尾市史編纂委員
"	村川 行弘	大阪経済法科大学教授
"	山中 孝一	八尾市教育委員会社会教育部部長 (以上五十音順)
事務局長	児玉 生一	
事務職員	森本よしの	
"	中谷 暁子	(嘱託)
技術職員	高萩 千秋	
"	原田 昌則	
"	成海 佳子	(嘱託)
"	西村 公助	( " )

## 7 理事会・評議員会の開催

会議名	開催年月日	議事内容
第1回 理事会	昭和60年6月12日	・昭和59年度の事業報告承認について
第1回 評議員会		・昭和59年度の収支決算承認について ・会計監査について
第2回 理事会	昭和61年2月26日	・昭和61年度の事業計画承認について
第2回 評議員会	昭和61年3月3日	・昭和61年度の収支予算承認について

## II 埋蔵文化財の発掘調査

昭和60年度に当調査研究会が八尾市教育委員会の指示を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の受託件数は7件を数え、総調査面積は9,582.6㎡に及んでいる。このうち、**3 壺振B遺跡**は昭和61年度にまたがる事業、**4 小阪合遺跡**は昭和57年度からの継続事業である南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、他は単年度の事業である。昭和60年度の調査では、調査地の大半が小面積であったにもかかわらず、新たな知見を多数得ることができた。

まず、古墳時代前期（庄内式期）では、**2 壺振B遺跡**の第4調査区で土坑および多数の柱穴を検出し、大阪府教育委員会昭和57年度・58年度調査地より北～西方へ居住地が広がることが確認された。**4 小阪合遺跡**の47地区では土坑・落ち込み状遺構・溝を検出し、小阪合遺跡のこの時期の居住地が東部へ広がることが確認できた。**6 東郷遺跡**では方形周溝墓7基・土墳墓1基・土坑4基を検出した。東郷遺跡では昭和58年度に実施した第17次調査でも同時期の方形周溝墓1基を検出しており、東郷遺跡の古墳時代前期（庄内式期）の墓域が2箇所に存在することが明らかになった。古墳時代前期（布留式期）では、**1 恩智遺跡**で落ち込み・溝が検出され、恩智川より西側一帯のこの時期の様相を知るうえで重要な資料を提供している。古墳時代後期では、**3 壺振B遺跡**で6世紀後葉に比定される方墳が検出され、平野部で単独に存在する古墳と生駒山地西麓南部における群集墳を対比して考えるうえで重要な資料を提供している。奈良時代では、**7 田井中遺跡**で水田を検出している。平安時代末期から鎌倉時代では、**5 老原遺跡**で居住地を検出しているほか、**7 田井中遺跡**で水田を検出している。鎌倉時代では、**2 壺振B遺跡**で居住地を検出したほか、**4 小阪合遺跡**では畦畔を阡陌に配する水田を検出している。

昭和60年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名	調査地	原因者	原因	調査期間	面積(㎡)	担当者
1	恩智	恩智北町1丁目51	松岡 亀雄	共同住宅建設	5月9日～6月8日	380	高萩
2	壺振B	緑ヶ丘1丁目17	八尾市	体育館等建設	5月24日～7月27日	967.6	西村
3	壺振B	緑ヶ丘2丁目1	大阪市	府営住宅建替	11月7日～昭和61年 4月30日	2366	西村
4	小阪合	青山町3丁目・5丁目・ 山本町南8丁目の一部	八尾市	区画整理	7月15日～12月28日	2742	高萩
5	老原	東老原1丁目11他	関西電力㈱	送電鉄塔建設	8月19日～9月10日	542	原田 成海
6	東郷	光町2丁目40地	八尾市	文化会館建設	10月29日～昭和61年 3月10日	1665	原田
7	田井中	志紀町西3丁目	近畿財務局	公務員宿舍建替	12月9日～昭和61年 3月11日	920	成海

## 1 恩智遺跡（第1次調査）

調査地：恩智北町1丁目51

調査期間：昭和60年5月9日～昭和60年6月8日

調査面積：380㎡

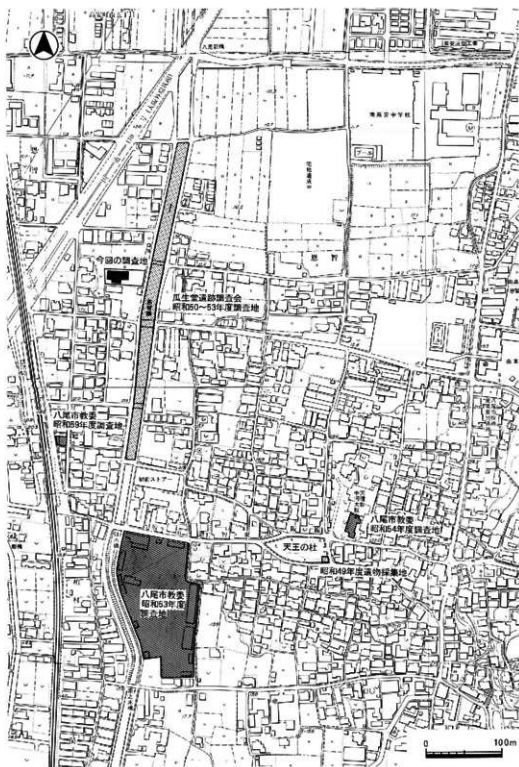
### はじめに

今回の発掘調査はマンション建設に伴うもので、当調査研究会が恩智遺跡内で初めて実施した調査である。

当遺跡は、生駒山地西麓に形成された扇状地末端から河内低平地にかけて広がる縄文時代前期から鎌倉時代に至る複合遺跡で、現在の行政区画では恩智北町・恩智中町・恩智南町一帯にあたる。当遺跡周辺では、北に郡川遺跡・水越遺跡・太田川遺跡、西には玉串川を挟んで東弓削遺跡・中田遺跡が位置している。

当地域が遺跡として考古学的に認識されたのは、大正6年（1917）7月に実施された京都帝國大学考古学研究室の発掘調査が最初で、同年8月にも鳥居龍藏氏らが天王の杜南西約200m註1の小字「茶の木畑」で発掘調査を実施した結果、弥生時代の全時期にわたる遺物が多量に出土し、当遺跡が弥生時代前期から後期に至る大集落であることが明らかとなった。また、昭和14年（1939）には大阪府による史前遺跡調査が実施され、同様の結果を得ている。これらの成果を踏まえ、天王の杜に「恩智石器時代遺蹟」の石碑が立てられたが、この時点では当遺跡が天王の杜を中心として東西200m・南北400mの範囲に広がる弥生時代の遺跡として認識されていた。ところが昭和16年（1941）には天王の杜の北方で井戸掘削の際、人骨片とともに縄文土器片が偶然発見され、さらに昭和18年（1943）の今里幾次氏註2による発掘調査でも縄文時代前期に比定される土器を確認したことから、当遺跡が縄文時代前期にまで遡ることが明確となり、府下でも重要な遺跡として位置づけられた。

以来大規模な開発もなく近年に至るが、昭和49年には天王の杜南東部で八尾消防署貯水槽工事掘削の際、縄文時代晩期から鎌倉時代に至る土器が採集されている。昭和50年度～昭和53年度には瓜生堂遺跡調査会によって恩智川改修工事に伴う発掘調査が実施され、縄文時代前期から古墳時代中期に至る遺構・遺物を検出したことから、当遺跡範囲が西部および北部へ広がることが明確になった。昭和53年度・昭和54年度には八尾市教育委員会が発掘調査を実施しており、いずれも弥生時代中期～後期に至る膨大な遺物の出土であった。さらに昭和59年度には同教育委員会註3が恩智川のさらに西部（近鉄恩智駅前）で発掘調査を実施した結果、弥生時代中期



第1図 調査地周辺図

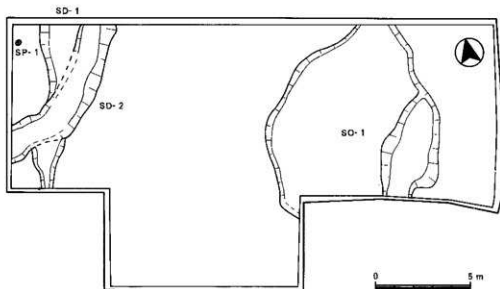
の土器棺を検出し、当遺跡の範囲がこれまでに考えられていたよりもさらに西方の低平地へも広がることが確認された。なお、恩智遺跡の東方の山麓からは、大正10年(1921)に垣内山で流水文銅鐸が、昭和21年(1949)には前記出土地から40m隔てた都塚山で袈裟襷文銅鐸が出土しており、当遺跡の弥生時代の集落に関連した遺物として注目できる。

#### 調査概要

マンション建設予定地にあわせて、調査区を設定した。調査に際しては、八尾市教育委員会の試掘結果に基づいて、現地表下1.4m(TP+8.2m)前後まで土層を機械掘削で排除し、以下の各層は人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、現地表下1.5~1.8m(TP+8.3~8.6m)に存在する暗緑灰色シルト層上面で古墳時代前期(布留式期)と古墳時代中期末~後期(5世紀末~6世紀初頭)に比定される遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は落ち込み状遺構1基(SO-1)と溝1条(SD-1)である。SO-1は調査区東部で検出し、内部から布留式の時期に比定される小型丸底壺・甕・高杯・タコ壺等が少量出土している。SD-1は調査区西部を南北に伸びるもので、出土遺物は布留式の時期に比定される小型丸底壺・小型台付壺・甕等である。

古墳時代中期末~後期の遺構には、溝1条(SD-2)と柱穴1個(SP-1)がある。SD-2は調査区西部で前期の溝SD-1と交差する形で検出され、南西から北へ向かってゆるいカーブを描く。内部からは、古墳時代中期末~後期に比定される須恵器蓋杯・高杯・琺・甕、土師器小型壺・鉢・高杯・甕、製塩土器等が出土している。SP-1は調査区北西隅で検出し、内部には柱根が遺存していた。



第2図 検出遺構平面図

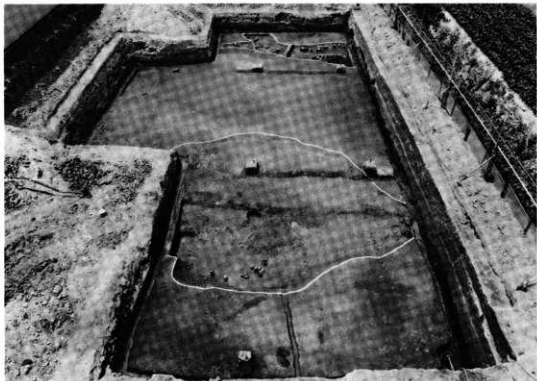
## まとめ

調査の結果、古墳時代前期・中期末～後期の遺構をはば同一面に検出することができた。また、古墳時代中期末～後期の柱穴は調査区北西隅で1個を検出したにすぎないが、内部には柱根が遺存しており、調査区より北西にこの時期の建物を想定することができる。さらに今回の調査で恩智川以西で遺構の存在が確認されたことによって、八尾市教育委員会昭和59年度調査地の結果とともに、当遺跡の各時代ごとの様相を推定するうえで有意義な成果が得られたと考えられる。

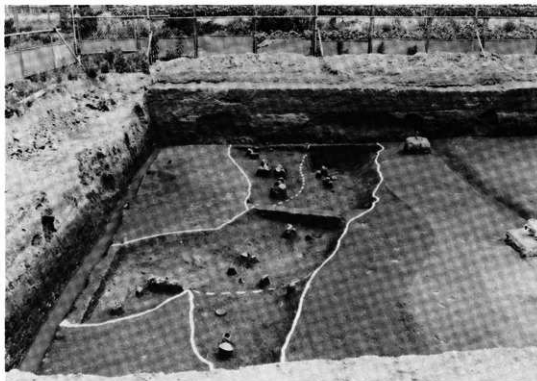
## 註

- 註1 梅原本治・島田良彦 「河内国石器時代遺跡発掘報告」『京都帝国大学文学部考古学研究报告第2冊』1923
- 註2 烏居龍雄 「石器時代遺跡調査(15)」大阪毎日新聞大正6年(1917)8月12日付
- 註3 藤岡謙二郎他 「中河内郡高安村恩智弥生式遺跡」『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告第12冊』1941
- 註4 橋口勝俊氏によって10個の土管・7個の縄文土器片が採集されている。
- 註5 今原幾次 「河内恩智の縄文土器」『日本考古学』1-3 1948
- 註6 山本昭・泉本和秀・福岡澄男 「八尾市恩智遺跡の出土遺物について」『大阪文化誌第2巻1号』1976
- 註7 瓜生寺遺跡調査会 「恩智遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」1980・1981
- 註8 a 昭R63年度に八尾市教育委員会が恩智中町3丁目でマンション建設に伴う発掘調査を実施、柱穴群と弥生中期(Ⅱ様式)～後期の土器を多量に検出している。  
b 昭R64年度に八尾市教育委員会が恩智中町2丁目で天聖教会建設に伴う発掘調査を実施、弥生中期(Ⅱ様式)～後期の上層が多量に出土している。
- 註9 八尾市教育委員会 「恩智遺跡の調査」『八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書』：八尾市文化財調査報告書11 1985
- 註10 2個の銅鐸の出土地点はともに同じ山の尾根から出土しているが、発見年・小字名・銅鐸の文様の違いから、坪内山銅鐸(流水文)・葛原山銅鐸(袈裟文)と呼ばれている。





調査区全景（東から）



SD-1・SD-2 検出状況（南から）

## 2 萱振B遺跡（第1次調査）

調査地：緑ヶ丘1丁目17

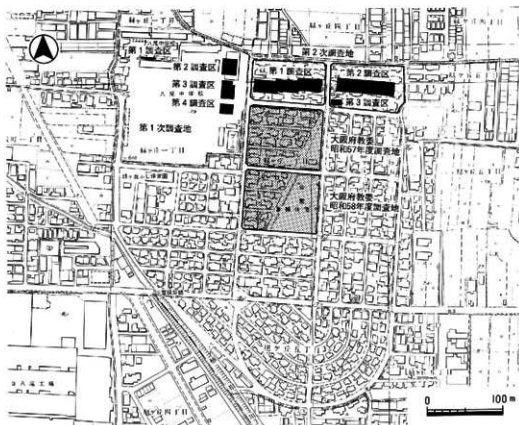
調査期間：昭和60年5月24日～昭和60年7月27日

調査面積：967.6㎡

### はじめに

今回の発掘調査は市立八尾中学校校体育館等建設工事に伴うもので、当調査研究会が萱振B遺跡内で初めて実施した調査である。

当遺跡は旧大和川の主流である玉串川と長瀬川に挟まれた沖積地上に位置しており、現在の行政区画では緑ヶ丘1丁目・2丁目・3丁目一帯にあたる。同一の沖積地には多くの遺跡があり、当遺跡の南には東郷遺跡・成法寺遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡、北には萱振A遺跡・山賀遺跡等が存在している。



第3図 調査地周辺図

当遺跡発見の契機は、昭和18年に八尾競馬場跡で防空壕構築の際古墳時代中期に比定される子持勾玉と若干の土師器が出土したことによるが、山土地点・出土土層等の詳細は不明であった。ところが昭和57年度に、大阪府教育委員会が府営八尾菅原第1期中層住宅新築工事に伴う発掘調査を実施したところ、古墳時代前期（布留式期）の土器棺墓群を主とした遺構・遺物が検出され、遺跡の実態が明らかになった。次いで昭和58年度にも大阪府教育委員会が同第2期工事に伴う発掘調査を実施した結果、弥生時代中期の方形周溝墓状遺構を検出し、当遺跡が弥生時代中期にまで遡ることが確認された。なお、当調査地の東側では、当調査研究会が昭和60年度に同第3期工事に伴う発掘調査（第2次調査）を実施している。

#### 調査概要

体育館等建設予定地に4箇所の調査区を設定し、第1調査区～第4調査区と付称した。調査に際しては、八尾市教育委員会の試掘結果に基づいて、現地表下0.5～0.8mまでの土層を機械掘削で排除し、以下の各層は人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、第1調査区では遺構は検出されなかったものの、第2調査区・第3調査区では古墳時代前期（庄内式期）と鎌倉時代の二時期にわたる遺構を検出し、第4調査区では古墳時代前期の遺構を検出した。

##### ・第1調査区

現地表下0.7m（TP+5.9m）前後で古墳時代の土師器・須恵器の小片を含む茶褐色シルト混粘土層を確認したが、遺構は検出されなかった。

##### ・第2調査区

現地表下0.8m（TP+5.8m）前後に存在する暗茶灰色シルト混粘土層上面で鎌倉時代の遺構を検出し、そより約0.2m下層の灰色細砂層上面では古墳時代前期の遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は溝1条（SD-1）で、内部から庄内甕・高杯等が出土している。これらの土器類は、完形に近いあるいは復元可能なものが大半を占めている。

鎌倉時代の遺構は溝1条（SD-11）で、内部からは瓦器碗等の磨耗をうけた細片がわずかに出土している。

##### ・第3調査区

現地表下0.9m（TP+0.6m）前後に存在する茶褐色細砂混粘土層上面で鎌倉時代の遺構、そより0.4m下層の茶褐色粗砂層上面で古墳時代前期の遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は土坑1基（SK-1）・溝1条（SD-2）・小穴2個（SP-1・SP-2）で、SD-2からは土師器の細片がわずかに出土している。

鎌倉時代の遺構は土坑4基（SK-11～SK-14）・溝1条（SD-12）で、各遺構内部から土師器・瓦器等の細片が少量出土している。

#### ・第4調査区

現地地表下0.7～0.9m (TP+6.1～6.3m) 前後に存在する淡褐色粗砂層上面で、古墳時代前期の土坑6基(SK-2～SK-7)・溝2条(SD-3・SD-4)・小穴44個(SP-3～SP-46)を検出した。これらのうち遺物は、SK-2から土師器片が少量出土したのみで、他の遺構からの出土はない。小穴の内部堆積土はすべて暗茶灰色礫混粘土で、ほぼ同時期に構築されたものと考えられる。なお、これらは建物を構成する柱穴と考えられるが、小面積のために建物を復元するには至っていない。

#### まとめ

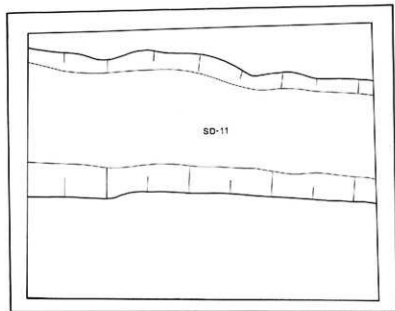
調査の結果、古墳時代前期と鎌倉時代の遺構を検出することができた。とくに第4調査区で検出した古墳時代前期の建物を構成すると考えられる柱穴群は、当遺跡では初の検出例であり、大阪府教育委員会昭和57年度調査地で検出した葛城に対応する居住域を考えるうえで、重要な資料を提供したといえよう。

#### 註

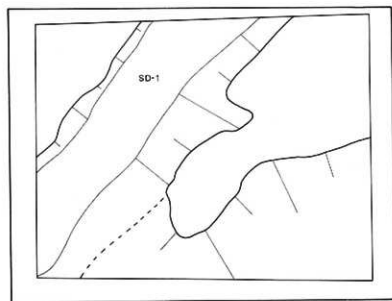
註1 金谷克己 『河内八尾発見の子持勾玉』『若木考古』 第62号 1962

註2 大阪府教育委員会 『豊振遺跡発掘調査報告・1』 一八尾市緑ヶ丘2丁目所在 1963

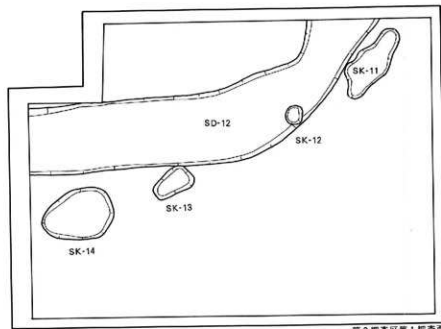
註3 大阪府教育委員会 『豊振遺跡現地説明会資料』 1983



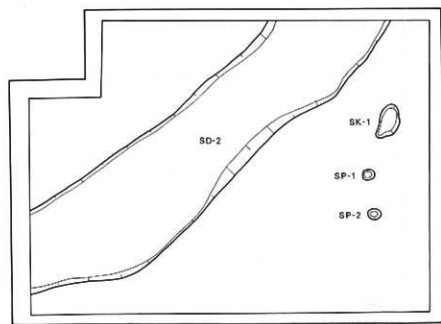
第2调查区第1剖面图



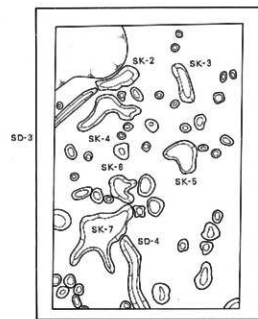
第2调查区第2剖面图



第3调查区第1剖面图



第3调查区第2剖面图



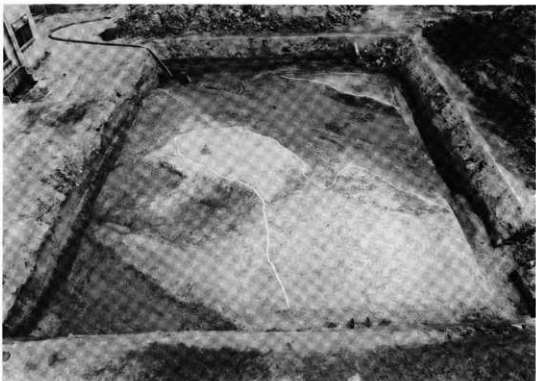
第4调查区



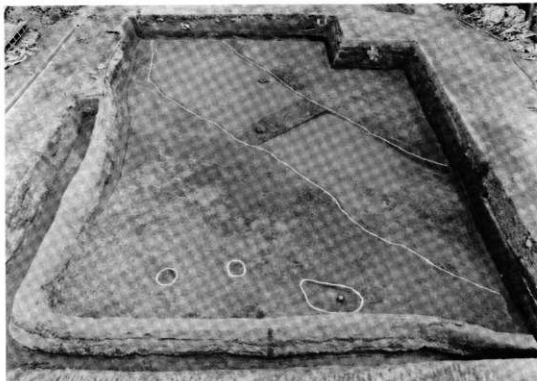
第4图 检出遗物平面图



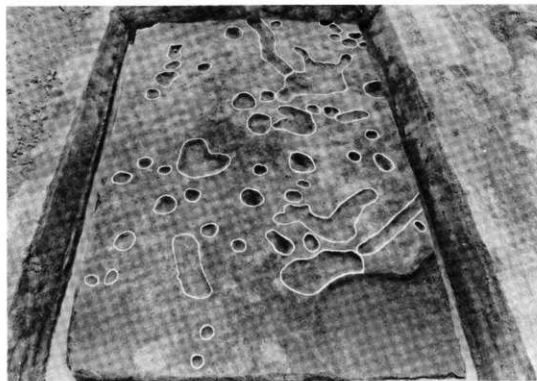
第1調査区全景（西から）



第2調査区第2調査面全景（南から）



第3調査区第2調査区全景（南から）



第4調査区全景（東から）

### 3 萱振B遺跡（第2次調査）

調査地：緑ヶ丘2丁目1

調査期間：昭和60年11月7日～昭和61年4月30日

調査面積：2366㎡

#### はじめに

今回の発掘調査は府宮八尾萱振第3期中層住宅新築工事に伴うもので、当調査研究会が萱振B遺跡内で実施した第2次調査にあたり、第1次調査地の東に隣接する。

#### 調査概要

調査対象地は道路を境として東と西に分かれており、西部の住宅構築予定地を第1調査区とし、東部の住宅構築予定地を第2調査区・防火水槽構築予定地を第3調査区と付称した。調査に際しては、八尾市教育委員会の試掘結果に基づいて、第1調査区では現地表下0.7m（TP+6.1m）・第2調査区および第3調査区では現地表下0.55m（TP+6.25m）までの土層を機械掘削で排除し、以下の各層は人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、古墳時代前期・古墳時代後期・鎌倉時代末期・近世の遺構を検出した。

##### ・第1調査区

調査の結果、現地表下0.8m（TP+6.2m）前後に存在する淡灰茶色細砂混粘土層上面で鎌倉時代末期の遺構を検出し、そこから0.3m下層の灰茶色細砂混粘土層上面で古墳時代前期（庄内式期）の遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は土坑4基（SK-1～SK-4）・溝8条（SD-1～SD-8）である。土坑はいずれも上面円形ないしは楕円形を呈するもので、東西幅0.5～1.8m・南北幅0.6～2.1m・深さ0.15～0.2mを測る。SK-2の内部から土師器片が少量出土している。溝は幅1.7～9.2m・深さ0.15～0.2mを測り、東西方向に伸びるもの1条（SD-8）・南北方向に伸びるもの7条（SD-1～SD-7）である。このうちSD-3の北部では、多数の足跡状遺構を検出している。

鎌倉時代末期の遺構は土坑1基（SK-101）・溝39条（SD-101～SD-139）である。土坑は上面楕円形を呈し、東西幅2.6m・南北幅2.1m・深さ0.1mを測るもので、内部から瓦器破片が少量出土している。SD101は幅3.3m・深さ0.15mを測り、南北方向に伸びる。他の溝は東西方向に伸びるもの28条（SD-102～SD-129）・南北方向に伸びるもの10条（SD-130～SD-139）で、これらは農耕に関するものと考えられる。

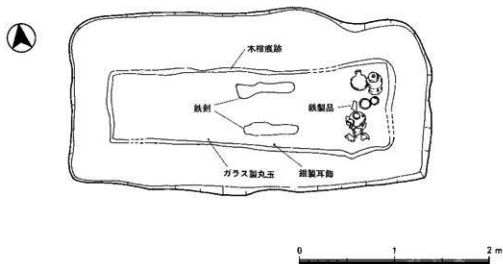


・第2調査区

調査の結果、現地表下0.8m (TP+6.2m) 前後に存在する茶褐色細砂泥粘土層上面で鎌倉時代末期から近世の遺構を検出した。そこより0.3m下層の灰茶色細砂泥粘土層上面で古墳時代前期・古墳時代後期・鎌倉時代の遺構・河道等を検出した。

古墳時代前期の遺構は溝2条 (SD-9・SD-10) である。ともに調査区西部で検出した。SD-9は幅4.0m・深さ0.2mを測るもので、東西方向に伸びた後東部でSD-6を切り、北へ屈曲する。SD-10は幅3.1m・深さ0.2mを測り、南北方向に伸びる。溝内からは、ともに古墳時代前期に比定される土器片が少量出土している。

古墳時代後期の遺構には古墳がある。古墳は調査区東部で検出した。墳丘の東部が鎌倉時代に比定される河道によって削平されており全形は保っていないが、遺存している部分からみて一辺15m程度の方墳であったと考えられる。墳丘は古墳時代前期の遺物包含層である茶灰褐色細砂泥粘土を盛り上げて構築されており、検出時の墳丘高は0.55mを測る。墳丘東部が河道と、西部がSD-11と一致することから、周溝そのものの有無は不明である。埋葬施設は2箇所 (第1主体・第2主体) を確認した。第1主体は墳丘のほぼ中央部で検出した。東西方向に長い掘形を有するもので、東西幅3.7m・南北幅1.8mを測る。その掘形の中央に木棺を埋設している。木棺は腐蝕し、もとの木質部分は白灰色の粘土に変化していたが、その痕跡から、長さ約2.8m・幅約0.8mを測る箱型木棺であったと推定される。副葬品は、須恵器台付長頸壺2点・高杯1点・提瓶1点・短頸壺1点・土師器杯1点・鉄製品1点が木棺内東端部から、銀製耳飾1点・ガラス製丸玉1点・鉄剣2点が中央部から出土している。第2主体は第1主体の



第5図 古墳第1主体平面図

南東約8mで、頭を北に向けた人骨(頭蓋骨・下顎骨等)を検出した。骨の遺存状態からみて南北に長い扁形を有するものと考えられるが、東部は河道に削られており、掘形は確認できなかった。なお、副葬品、木棺等の痕跡は認められなかった。

鎌倉時代の遺構には溝1条(SD-11)と河道がある。SD-11は古墳の西側を南北に伸びるもので、西の肩は明確に検出していないが、幅1m程度、深さ0.3mを測る。内部から土師器・瓦器等の破片が少量出土している。河道は古墳の東部を削って南北に伸びるもので、東岸は調査区外へ至るために幅は不明であるが、検出部の幅24~26m・深さ0.6mを測る。内部は粗砂で充填されており、瓦器・土師器・須恵器等の小片が少量含まれている。

鎌倉時代末期の遺構は井戸1基(SE-101)・溝2条(SD-140・SD-141)である。SE-101は上面円形を呈する素掘り井戸で、径0.8m・深さ0.6mを測る。内部から瓦器片・土師器片が少量出土している。SD-140は検出幅5.0m・深さ0.15mを測り、東西に伸びた後北へ屈曲する。SD-141は幅0.8m・深さ0.15mを測り、東西に伸びる小溝で、農耕に関するものである。

近世の遺構には井戸1基(SE-102)がある。SE-102は上面円形を呈し、径1.6m・深さ1.7mを測る掘形を有し、掘形中央部に桶を積み上げて井戸側としている。なお桶は3段を確認した。

### ・第3調査区

第2調査区と同様、TP+6.2m前後に存在する茶褐色細砂泥粘土層上面で鎌倉時代末期の遺構を、そこより0.3m下層の灰茶色細砂泥粘土層上面で古墳時代前期の遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は溝1条(SD-12)である。SD-12はほぼ東西に伸びるが、南側が調査区外へ至るため幅は不明である。内部から古墳時代前期に比定される土器片が少量出土している。

鎌倉時代末期の遺構は小穴3個(SP-101~SP-103)である。いずれも上面円形を呈するもので、径0.1~0.3m・深さ0.1~0.2mを測る。

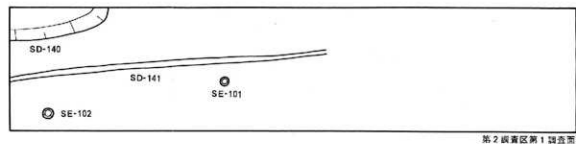
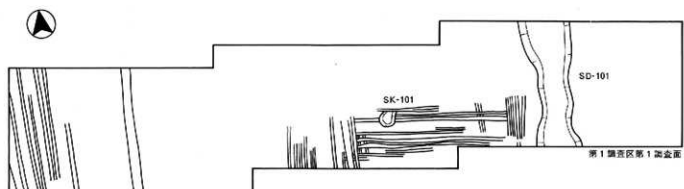
### まとめ

今回の調査では、古墳時代前期・古墳時代後期・鎌倉時代末期・近世に比定される遺構・遺物を検出した。なかでも第2調査区で検出した古墳は6世紀後葉に比定されるもので、河内平野低地部で検出された古墳の中では現地点で一番新しい時期の古墳と言える。河内平野低地部では、昭和49年に長原遺跡で古墳が確認されて以来、古墳時代前期から後期中葉に至る古墳が巨摩院寺遺跡・山賀遺跡・友井東遺跡・壹振A遺跡・美園遺跡・亀井遺跡・八尾南遺跡で検出されている。なかでも、6世紀代の古墳については前葉を境として激減する現象が顕著であり、中葉に山賀古墳が築造されるのを最後として、河内平野低地部では古墳の造営が停止したもの

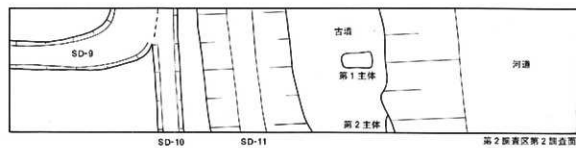
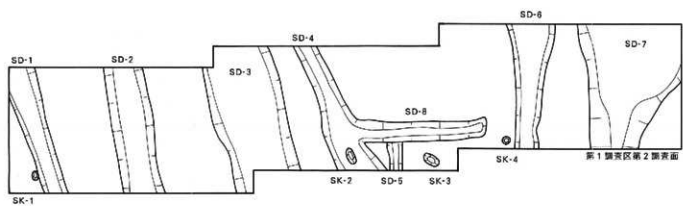
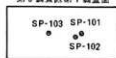
と考えられていた。しかし、今回の調査により新たに古墳時代後期後葉に比定される古墳が検出されたことから、この時期まで一部で古墳が造営されている事実が明確となった。さらに、河内平野低地部では、6世紀前葉以降古墳造営が激減する現象に符合して、集落の存在そのものが減少する事実が指摘できる。そのピークは前葉から中葉にあったようで、後葉に至ってはほとんど集落の存在が認められないのが現状である。このような河内平野低地部における集落の推移と生駒山地西麓南部の古墳造営の増加が符合することから、この時期に集落そのものが生駒山地西麓に移動したとする考えが有力である。事実、生駒山地西麓南端に位置する柏原市域では河内平野低地部の集落減少に反して集落が増加する傾向が認められる。ただ、八尾市域においては山麓部で実施された発掘調査が少なく実態はまったく不明であるが、6世紀代の河内平野低地部の古墳減少の要因として、集落の移動を推定せざるを得ないのが現状と言えよう。しかしながら、当調査地で検出した古墳と、同時期の生駒山地西麓の古墳を比較するとき、細部において相違が認められる。これらの幕制の相違は集落移動にかかわる要因・動向を推定するうえで示唆的である、いずれにしても、河内平野低地部の6世紀代の古墳を考えるうえで集落の移動と生駒山地西麓南部の群集墳の関係を明確にする必要があろう。

註

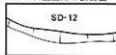
- 註1 a 長原遺跡調査会 『長原遺跡発掘調査』資料編 1976  
 b (財)大阪文化財センター 『長原』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1978
- 註2 (財)大阪文化財センター 『山賀・瓜生堂』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1981
- 註3 (財)大阪文化財センター 『山賀(その2)』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1983
- 註4 (財)大阪文化財センター 『友井東(その1)』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1984
- 註5 大阪府教育委員会 『豊振遺跡発掘説明会資料1』1984
- 註6 (財)大阪文化財センター 『美岡』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1985
- 註7 (財)大阪文化財センター 『仙井・城山』寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事工期埋蔵文化財発掘調査報告書 1980
- 註8 a 八尾南遺跡調査会 『八尾南遺跡』大阪市高速電気軌道2号線建設に伴う発掘調査報告書 1981  
 b 昭和65年度に八尾市教育委員会が若林町3丁目でマンション建設に伴う発掘調査を実施、6世紀代の方墳1基を検出している。  
 c (財)八尾市文化財調査研究会 『八尾南遺跡』『昭和68年度事業概要報告』:(財)八尾市文化財調査研究会報告5 1984  
 d (財)八尾市文化財調査研究会 『八尾南遺跡(第2次調査)』『昭和69年度事業概要報告』:(財)八尾市文化財調査研究会報告7 1985



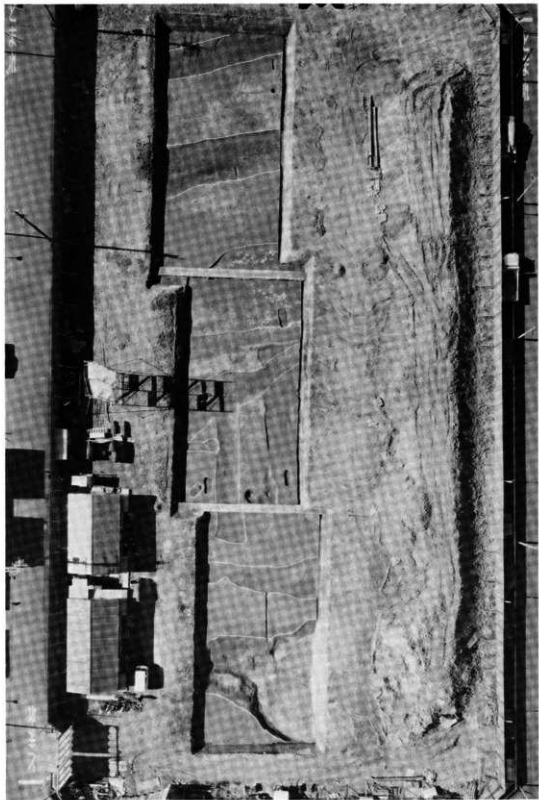
第3調査区第1発掘面



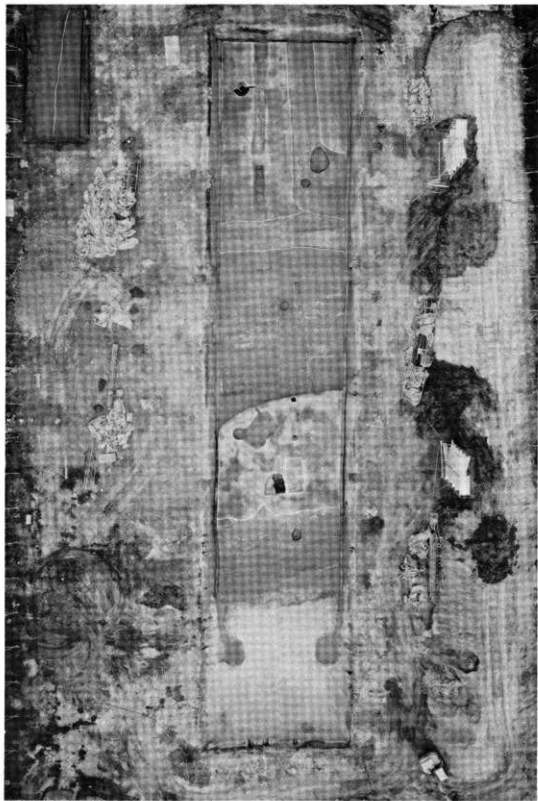
第3調査区第2発掘面



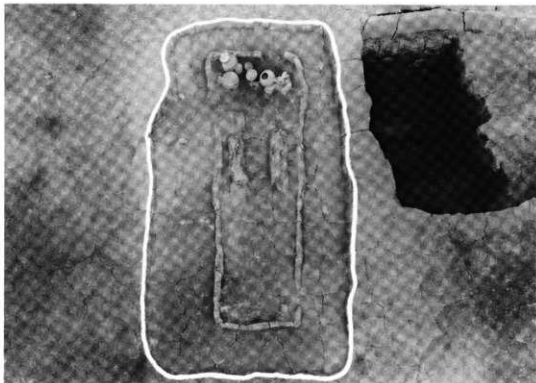
第6図 検出遺構平面図



第1調査区第2調査面全景



第2調査区・第3調査区第2調査面全景



古墳第1主体検出状況（西から）



同 随物出土状況（東から）

## 4 小阪合遺跡（第6次調査）

調査地：青山町3丁目・5丁目、山本町南8丁目の一部

調査期間：昭和60年7月15日～昭和60年12月28日

調査面積：2742㎡

### はじめに

今回の発掘調査は八尾市都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で実施した発掘調査の第6次調査にあたる。

当遺跡は旧人和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積上に位置しており、現在の行政区画では青山町2丁目～5丁目・南小阪合町4丁目を中心に広がっている。同一の沖積地には南東から北西に、東己削遺跡・中田遺跡・矢作遺跡があり、さらに当遺跡の北側に成法寺遺跡・東郷遺跡・萱振B遺跡・佐堂遺跡・宮町遺跡等が位置している。

当遺跡内では、上記土地区画整理事業に伴う発掘調査を昭和57年度から当調査研究会が継続して実施しているほか、一連の都市計画事業に伴う発掘調査を大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会が実施しており、当遺跡が弥生時代後期から近世に至る複合遺跡であることが確認されている。

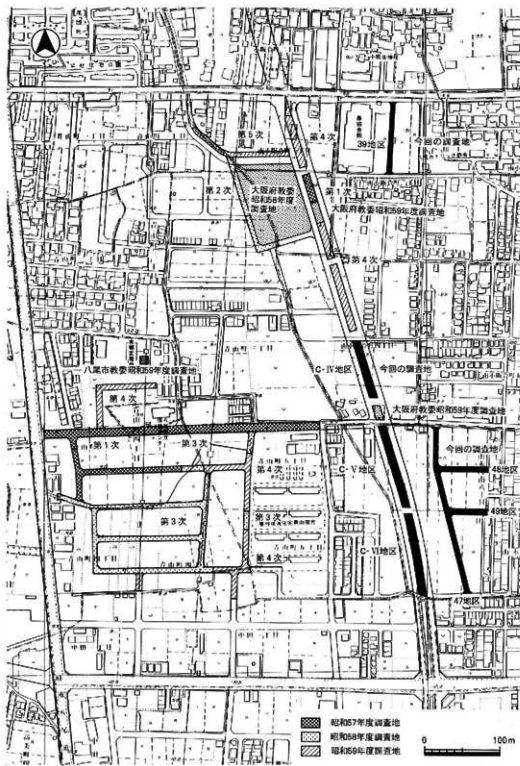
### 調査概要

昭和60年度の調査地は遺跡推定範囲の東部に集中している。調査地は既往調査と同様都市計画道路部分にあたり、道路予定地中央部に道路幅に応じて幅2mないしは6mのトレンチを設定して調査を実施した。調査の結果、現地表下0.6m（TP+8.1m）前後で鎌倉時代の遺構を検出し、そこより0.3m下層で古墳時代前期の遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は灰黄色シルト・青灰色粘質土層上面で、井戸状遺構・落ち込み状遺構・溝等を検出した。

鎌倉時代の遺構には水田と河道がある。水田はほぼ調査区全域で確認し、青灰色粘土を耕作土としている。水田上面で検出した小溝はすべて南北・東西方向に伸びるもので、条里区割に合致した土地利用が実施されていたものと推定される。なお、水田上面は一律に砂質層で被覆されており、洪水によって水田が放棄されたものと推定される。一方、調査区南部で検出した河道跡は幅は不明であるが深さは2～2.5mを測るもので、内部には粗砂と粘土が互層に堆積している。内部からは弥生時代から鎌倉時代中期に至る遺物が出しており、鎌倉時代中期までは機能を果たした河道であったことが推定される。





第7図 調査地周辺図

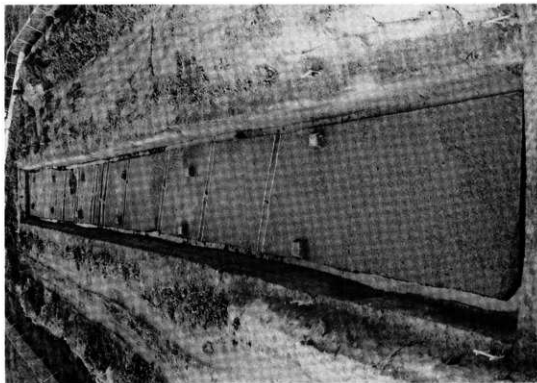
## まとめ

当調査は都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴って昭和57年度から継続して実施している調査で、本年度の調査地を含めて合計8575㎡の発掘調査を実施している。ただ、区画整理事業の性格上、調査対象地が2～6mに限定された道路部分であるため、調査の概要も線的に捉えた調査結果をもとに全体を把握しなければならないのが現状である。

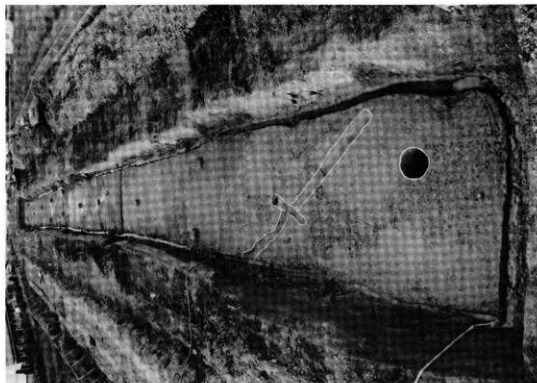
今回の調査では、古墳時代前期と鎌倉時代の遺構が検出された。とくに古墳時代前期の遺構の存在は、これまで未確認であった当遺跡東部に新たな知見を与える結果となった。一方調査区南部で検出した河道は、既往調査を含めて5本目に確認されたもので、今後これらの河道の流路方向や存続時期を踏まえたうえで、総合的に小阪合遺跡の各時代ごとの様相を明らかにする必要がある。

## 註

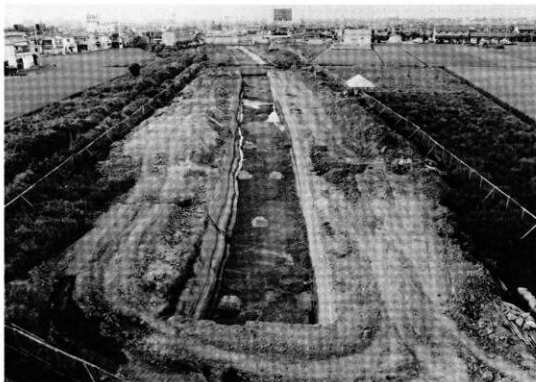
- 註1 a 昭和58年度に大阪府教育委員会が南小阪合町1丁目以小阪合ポンプ場建設に伴う発掘調査を実施している。  
b 昭和59年度に大阪府教育委員会が南小阪合町4丁目以都市計画事業豊屋川南部流城下水道事業に伴う発掘調査を実施している。  
c 八尾市教育委員会 「小阪合遺跡の調査〈青山町4丁目4〉」『八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告』：八尾市文化財調査報告11 1985  
d (附) 八尾市文化財調査研究会 『小阪合遺跡発掘調査概要—流域下水道等整備に伴う発掘調査—』(財)八尾市文化財調査研究会報告8 1986



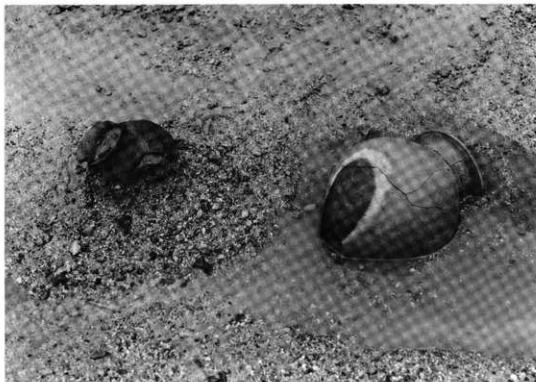
C-IV地区全景（南から）



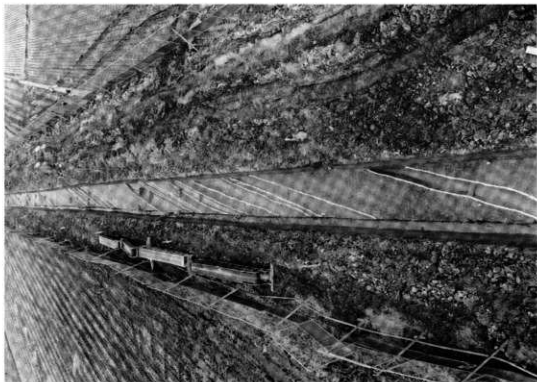
C-V地区全景（南から）



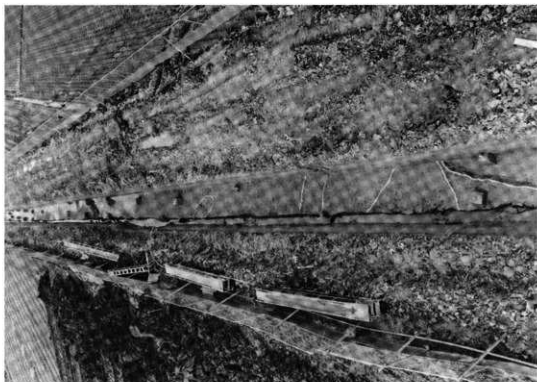
C-1号地区全景（南から）



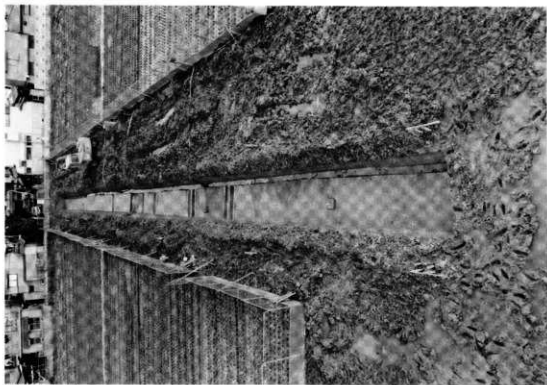
同 遺物出土状況（東から）



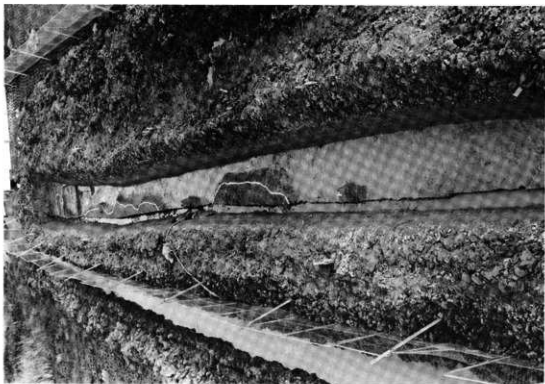
47地区第1調査面全景（南から）



同 第2調査面全景（南から）



48地区全景（西から）



49地区全景（西から）

## 5 老原遺跡（第2次調査）

調査地：東老原1丁目11他

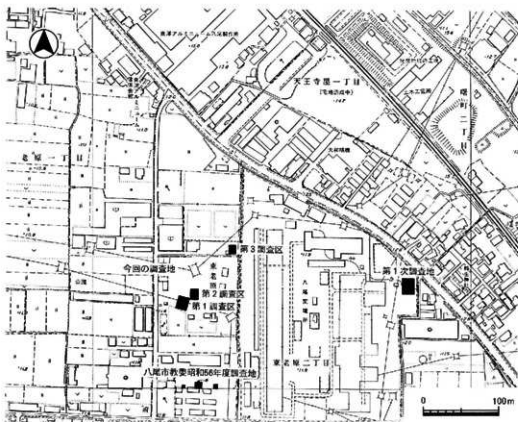
調査期間：昭和60年8月19日～昭和60年9月10日

調査面積：542㎡

### はじめに

今回の発掘調査は関西電力㈱の送電鉄塔建設に伴うもので、当調査研究会が老原遺跡内で実施した調査の第2次調査にあたる。

当遺跡は旧大和川の主流である長瀬川左岸の沖積地に位置しており、現在の行政区画では老原1丁目・2丁目・東老原1丁目にあたる。周辺には同様の立地条件で、西に植松遺跡・太子堂遺跡・木の本遺跡、南には田井中遺跡、南東に弓削遺跡が位置している。



第8図 調査地周辺図

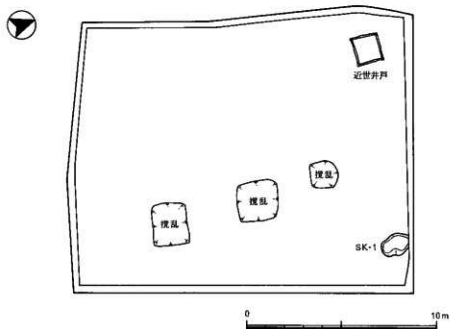
当地域が遺跡として認識される以前は、過去に奈良時代の瓦が出土したと伝えられる東老原1丁目の通称「五条の宮」を中心として、寺院に関連した遺構の存在が推定されていた。ところが昭和56年にこの「五条の宮」から南東400mの東老原1丁目で八尾市教育委員会が実施した関西電力㈱の社宅建設に伴う発掘調査で、古墳時代後期と鎌倉時代に比定される集落遺構が検出され、当遺跡が複合遺跡であることが判明した。さらに昭和59年度には当調査研究会が東老原2丁目の関西電力㈱の八尾変電所内で建築物の構築に先立って実施した発掘調査（第1次調査）では、古墳時代後期と鎌倉時代の生産遺構を検出している。

#### 調査概要

3箇所の铁塔建設予定地を調査区とし、第1調査区～第3調査区と付称した。調査に際しては、八尾市教育委員会の試掘結果に基づいて、現地地表1.0m（TP+10.10m）前後までの土層を機械掘削で排除し、以下の各層は人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、各調査区の現地地表下1.3～1.4m（TP+9.8m）前後に存在する灰褐色砂質土層上面で、平安時代末期～鎌倉時代（12世紀～13世紀）の遺構を検出した。

#### ・第1調査区

近世～近代の井戸・現代の掘削等によって遺構面が削平されている部分があったが、調査区北東隅で平安時代末期の土坑1基（SK-1）を検出した。内部からは12世紀末の瓦器碗をはじめとして、土師器小皿・羽釜等が比較的多量に出土している。



第9図 第1調査区検出遺構平面図

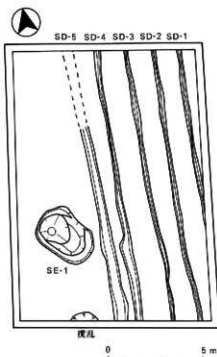


・第2調査区

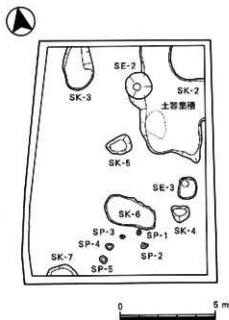
鎌倉時代の井戸1基（SE-1）・溝5条（SD-1～SD-5）を検出した。SE-1は上面楕円形を呈し、2段掘形を有するもので、現状では素掘り井戸と考えられるが、竹製の籠が遺存していたことから近世以降の桶積み上げ井戸の可能性も考えられる。しかし、内部からは瓦器碗を主とする鎌倉時代の上器片が出土していることから、構築時期を鎌倉時代とした。一方溝はすべて南北に平行して伸びる小溝で、農耕に関連するものと考えられる。各溝の内部からは、土師器・須恵器・瓦器等の小破片がわずかに出土している。

・第3調査区

井戸2基（SE-2・SE-3）・土坑6基（SK-2～SK-7）・小穴5個（SP-1～SP-5）を検出した。SE-2は調査区北部中央で検出し、SK-2の西端に構築されている。井戸掘形の中央には曲物を4段積み、その上に羽釜を伏せて井戸側としている。井戸内部・掘形からは、13世紀末に相当する瓦器碗・土師器小皿等が出土している。SE-3は調査区東部で検出した曲物井戸である。曲物は3段を検出したが、最上段の曲物は掘形検出レベルより低いため、さらに上部に何らかの井戸側が存在していたものと推定される。この井戸の曲物は破損が著しく、周囲に竹・板を用いた補修が繰り返されており、長期間にわたって使用されていたことが窺える。井戸内部・掘形からは、13世紀初頭～末期にわたる多量の土器類が多量に出土しており、井戸廃絶後も廃棄坑として使用されていたものと考えられる。SK-2は調査区東部で検出したもので、東西3m・南北2mの範囲を持つ不定形の土坑で、南西



第10図 第2調査区検出遺構平面図



第11図 第3調査区検出遺構平面図

部で13世紀初頭に比定される羽釜・瓦器碗・瓦器小皿等からなる土器集積が認められたほか、同時期の土器類が多量に出土している。SK-3～SK-7および包含層からもほぼ13世紀に比定できる瓦器碗をはじめとして、土師器小皿・羽釜・瓦器小皿・須恵器播鉢・常滑焼甕等が多量に出土している。SP-1～SP-5はいずれも同時期に構築されたものと考えられるが、建物を復元するには至らなかった。

#### まとめ

調査の結果、平安時代末期～鎌倉時代の集落遺構と生産遺構を検出することができた。当調査地の南100～150 mに位置する八尾市教育委員会昭和56年度調査地では、鎌倉時代の集落遺構が検出されており、同時代の集落範囲が北へ広がることが確認できた。また、生産遺構については、当調査地の東200～300 mに位置する当調査研究会第1次調査地でも確認しており、当該時期の土地利用がわずかではあるが看取できるようになった。

#### 註

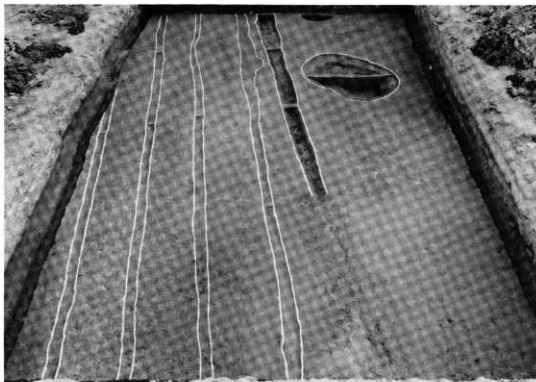
註1 八尾市史編纂委員会 『八尾市史』 1968

註2 (財)八尾市文化財調査研究会 『老屋遺跡発掘調査概要報告』『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』：(財)八尾市文化財調査研究会報告2 1983

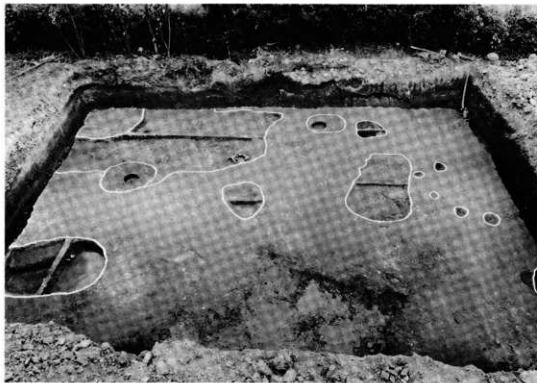
註3 (財)八尾市文化財研究会 『老屋遺跡(第1次調査)』『昭和59年度事業概要報告』：(財)八尾市文化財調査研究会報告7 1985



第1調査区全景（北から）



第2調査区全景（北から）



第3調査区全景（西から）



同 SE-3断面（南から）

## 6 東郷遺跡（第20次調査）

調査地：光町2丁目40他

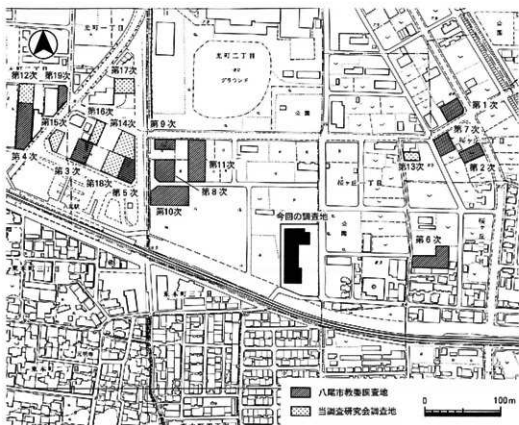
調査期間：昭和60年10月29日～昭和61年3月10日

調査面積：1665㎡

### はじめに

今回の発掘調査は八尾市の文化会館建設に伴うもので、八尾市教育委員会・当調査研究会が東郷遺跡内で実施した発掘調査の第20次調査にあたる。

当遺跡は旧大和川の主流である長瀬川・玉半川に挟まれた沖積地に位置しており、現在の行政区画では、東本町・北本町・光町・桜ヶ丘一帯にあたる。同一の沖積地には多くの遺跡があり、当遺跡の周辺に限れば、南東に小阪合遺跡・南西に成法寺遺跡・北西に宮町遺跡・北東に



第12図 調査地周辺図

菅振B遺跡が挙げられる。これまでの調査結果から、当遺跡は弥生時代中期から鎌倉時代に至る複合遺跡であることが判明している。

#### 調査概要

八尾市教育委員会の試掘結果に基づいて、現地表下1.6m (TP+7.3m) までの土層を機械掘削で排除し、以下の各層は人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。なお、調査中に古墳時代前期の方形周溝墓群を主とする遺構を検出したことから、八尾市教育委員会の指示に従って当初の調査面積に465㎡を追加し、当該時期の遺構の広がりを追求した。その結果、現地表下1.8~1.9m (TP+7.0m) 前後に存在する灰黄色粘質土~シルト層上面で、古墳時代前期(庄内式期)と近世末期~近代初頭の遺構を検出したほか、調査区中央東部から北東隅で古墳時代前期に埋没した河川跡を検出した。

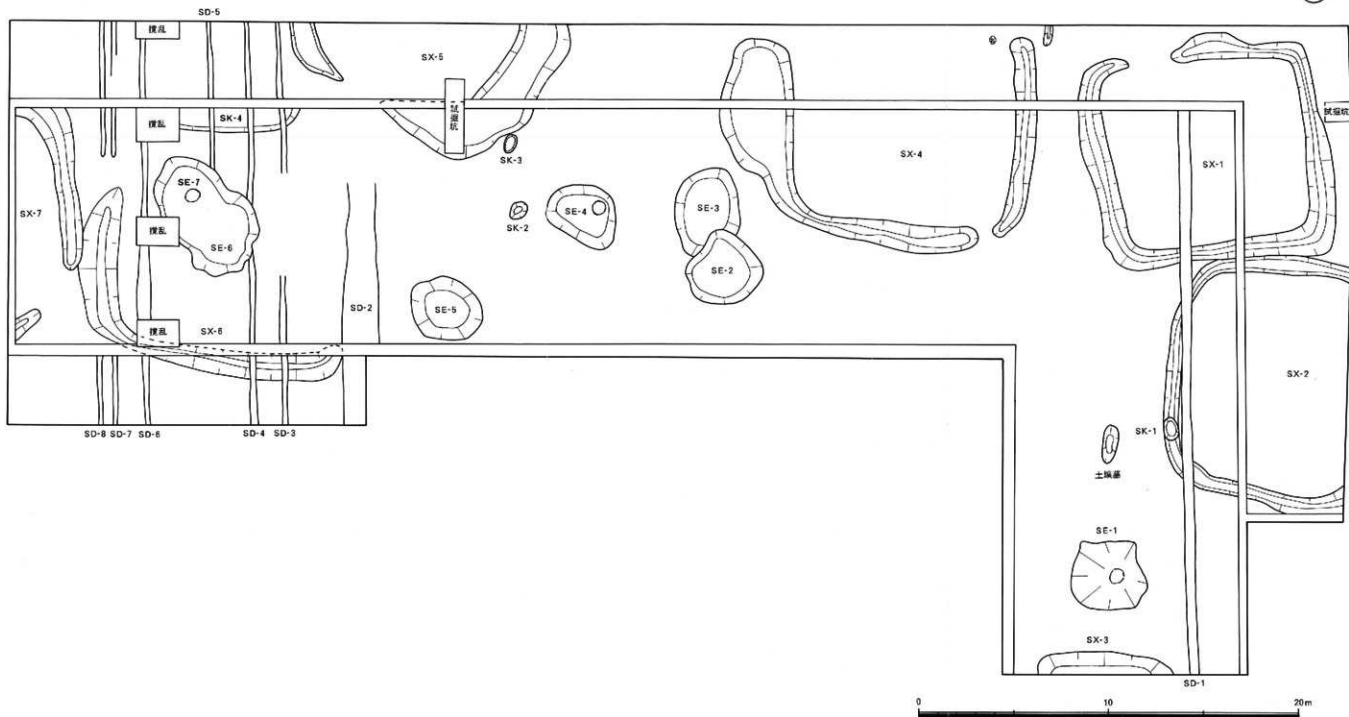
古墳時代前期の遺構は方形周溝墓7基(SX-1~SX-7)・土壇壘1基・土坑4基(SK-1~SK-4)である。調査地一帯は中世末期以降降水田として利用されていたため、方形周溝墓は上部を削平されており、いずれも主体部は検出されていない。規模は一辺10~11.5m程度を測り、周溝幅は0.5~4mを測る。周溝内部からは、庄内甕・二重口緑壺等が出土している。土壇壘は東西2.0m・南北0.9mの階円形を呈するもので、ほぼ平坦な底部に木片3本が南北に平行に置かれており、その上に何らかの埋葬施設があったものと考えられるが、その痕跡は認められなかった。なお土壇壘東端には、庄内式期に比定される大型甕が伏せた状態で置かれていた。

近世末期~近代初頭の遺構は井戸7基(SE-1~SE-7)・小溝(SD-1~SD-8)である。井戸の構築位置は、調査地のなかでも相砂の堆積する部分(埋没河川跡)に限られる。小溝はすべて東西方向に伸びるもので、農耕に関連するものと考えられる。

方形周溝墓一覧表

単位m、( )内は検出幅

略号	規 模	周溝幅	周溝の深さ	出 土 遺 物	備 考
SX-1	東西10 ×南北10	0.7~2.0	0.25	庄内甕・大型直口甕	陸橋部
SX-2	東西11 ×南北(9)	0.5~1.0	0.1~0.2	庄内甕・古備系甕	
SX-3		0.5以上	0.25	庄内甕・古備系甕	
SX-4	東西9 ×南北11.5	0.7~4.0	0.25	二重口緑壺・大型甕	陸橋部
SX-5	東北(5.5) ×東南(9)	1.5~3.0	0.2	二重口緑壺	陸橋部
SX-6	東西8 ×南北11	1.5~2.2	0.2		
SX-7	東西(10.2) ×南北(2.1)	0.8~2.0	0.1		陸橋部



第13圖 横出遺構平面図

## まとめ

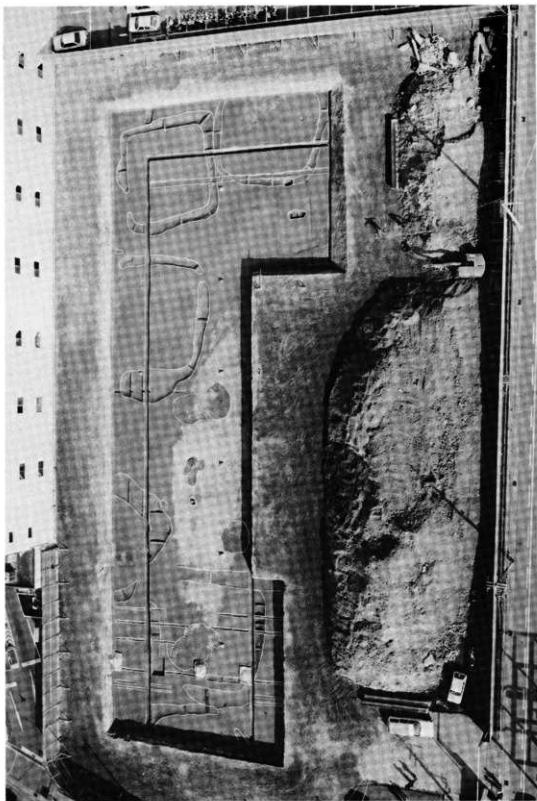
調査の結果、古墳時代前期の方形周溝墓7基・土壌墓1基を検出することができた。当遺跡内では、北部にあたる第17次調査地でも方形周溝墓1基を検出しており、この時期に居住地の北側と南東側の2箇所に墓域を持つことが新たに確認された。また、今回の調査結果から、当遺跡の古墳時代前期の集落範囲が、これまでに考えられていたよりもさらに南東に広がること  
が明らかになった。

註1 八尾市教育委員会が実施した調査 第1次調査（昭和55年度）、第2次調査～第10次調査（昭和56年度）、第11次調査（昭和57年度）、第19次調査（昭和60年度）

当調査研究会が実施した調査 第12次調査・第13次調査（昭和57年度）、第14次調査～第17次調査（昭和58年度）、第18次調査（昭和59年度）

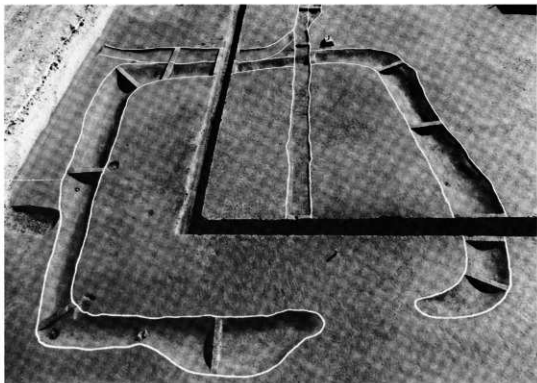
註2 （財）八尾市文化財調査研究会 「東郷遺跡（第18次調査）」『昭和59年度事業概要報告』：（財）八尾市文化財調査研究会報告7 1985



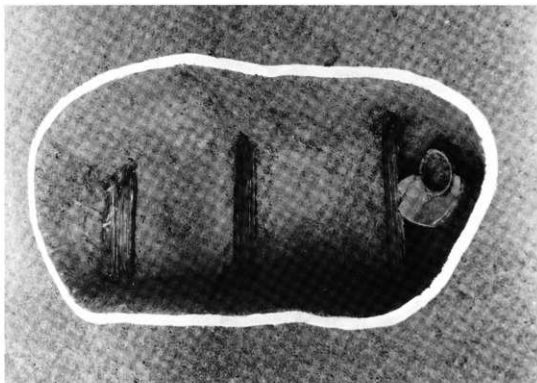


調査区全景

但し、調査地の拡張に際して調査区北東隅を埋め戻したためS X-3は写っていない。



SX-1 検出状況 (西から)



土坑墓検出状況 (南から)

## 7 田井中遺跡（第3次調査）

調査地：志紀町西3丁目

調査期間：昭和60年12月9日～昭和61年3月11日

調査面積：920㎡

### はじめに

今回の発掘調査は国家公務員合同宿舍建て替えに伴うもので、当調査研究会が田井中遺跡内で実施した発掘調査の第3次調査にあたる。

当遺跡は、長瀬川と平野川に挟まれた沖積地に位置しており、現在の行政区画では田井中4丁目を中心として広がっている。同様の立地条件で当遺跡の南東に弓削遺跡・北に老原遺跡が位置し、北西には太子堂遺跡・西には木の本遺跡・八尾南遺跡が位置している。



第14図 調査地周辺図

当遺跡発見の契機は、陸上自衛隊八尾駐屯地内での工事掘削に際して弥生時代前期～後期と古墳時代～奈良時代の土器が出土したことによるが、出土状況等の詳細は不明であった。ところが、昭和57年度に当調査研究会が同八尾駐屯地内で浴場増築に伴う発掘調査（第1次調査）を実施した結果、弥生時代前期～中期と古墳時代中期の遺物包含層のほか、柱穴1個を検出した。この調査で検出した遺物包含層については、遺物出土状況から二次堆積の土層と考えられるが、柱穴を検出したことから、時期は明確に出来ないものの、生活面の存在が明らかになった。さらに昭和59年度にも、同八尾駐屯地内で器具工場建設に伴う発掘調査（第2次調査）を実施した結果、弥生時代中期と古墳時代前期の遺構を検出した。これらの調査結果から、当遺跡は弥生時代中期と古墳時代前期の二期期の生活面を持つことが明らかとなった。

今回の調査地はこれらの調査地の北東500～600mに位置する。この地域一帯は府営住宅・公務員宿舎等が建ち並ぶ住宅地であるが、老朽化が進んでおり、現在建て替えの時期にあたっている。大阪府教育委員会ではこの付近を「志紀遺跡」と付称しており、昭和58年度には志紀町4丁目府営住宅建て替えに伴う発掘調査が実施され、古墳時代の水田遺構が確認されている。続いて昭和60年度にも大阪府教育委員会志紀町西1丁目と同様の発掘調査を実施しており、奈良時代から鎌倉時代に対応する土層中で数枚の水田土層が確認されている。今回の調査地は、大阪府教育委員会昭和58年度調査地の南、昭和60年度調査地の西に隣接している。

#### 調査概要

宿舎・浄化槽構築予定地を調査区とし、第1調査区～第3調査区と付称した。調査に際しては、八尾市教育委員会の試掘結果に基づいて、現地表下1.5～2.1m（TP+10.2～10.4m）までの土層を機械掘削で排除し、以下の各層は人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、平安時代末期～鎌倉時代初頭に埋没した水田を検出した。さらに下層の堆積状況を確認する目的で、トレンチを設定した掘削を進めたところ、奈良時代に埋没したと考えられる水田を検出した。

#### ・第1調査区

現地表下2.6m（TP+9.3m）前後に存在する青灰色粘土層上面で平安時代～鎌倉時代初頭の水田面を検出し、そこより0.5m下層の暗褐色粘土層上面で奈良時代の水田面を検出した。奈良時代の水田上面には多数の足跡状遺構が遺存しており、足跡状遺構内部および水田上層には青灰色シルトが堆積している。なお壁面で畦畔の可能性のある暗褐色粘土の高まりを認めたが、平面的に捉えることはできなかった。

平安時代末期～鎌倉時代初頭の水田も下層の水田同様足跡状遺構を伴っており、上層には灰色シルト混砂質土が堆積している。なお畦畔は検出できなかったが、南北方向2箇所・東西方向1箇所足跡の少ない部分があり、これらを畦畔と考えることができるが確証は得ていない。

## ・第2調査区

第1調査区同様、現地地表2.6m前後に存在する青灰色粘土層上面で平安時代末期～鎌倉時代初頭の水田面、そこより0.6m下層の暗褐色灰色粘土層上面で奈良時代の水田面を検出した。

奈良時代の水田上面は第1調査区と同様青灰色シルトで被われている。ここでは足跡状遺構のほか、南西～北東に伸びる畦畔1条を検出した。畦畔は、耕作土である暗褐色灰色粘土を盛り上げて構築されている。

平安時代末期～鎌倉時代初頭の水田も第1調査区同様上面には灰色シルト混砂質土が堆積している。ここでも足跡状遺構のほか、南北方向に伸びる畦畔2条を検出した。2条の畦畔は約20mの間隔で並行に伸び、ともに耕作土である青灰色粘土を盛り上げて構築されている。なお水田上面を被う灰色シルト混砂質土からは、12世紀に比定される白磁碗片が1点出土している。

## ・第3調査区

現地地表1.8m(TP+10.1m)前後に存在する青灰色粘土層上面で平安時代末期～鎌倉時代初頭の水田面、そこより0.8m下層の暗褐色灰色粘土層上面で奈良時代の水田面を検出した。

奈良時代の水田面には多数の足跡状遺構が遺存しており、遺構内部・上面には灰色粗砂が堆積している。この灰色粗砂からは、須恵器製の破片が1点出土している。

平安時代末期～鎌倉時代初頭の水田面も足跡状遺構が伴っており、上面には青灰色シルトが堆積している。

## まとめ

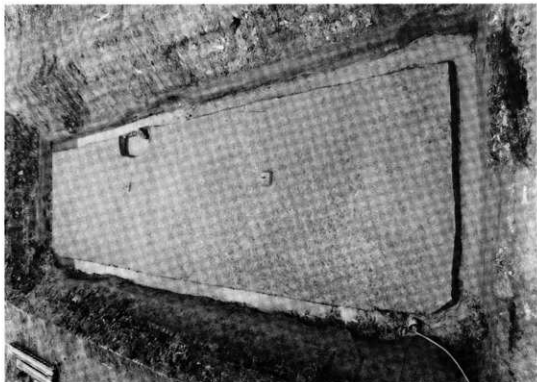
調査の結果、二時期の水田遺構を検出することができた。両遺構の上層には洪水に起因すると考えられる砂・シルト等が堆積しており、これらの水田は旧大和川の氾濫によって埋没したことが窺える。下層で検出した水田は、西接する大阪府教育委員会昭和60年度調査地で検出された奈良時代の水田に対応するものと考えられる。一方、上層水田では南北方向に平行して伸びる2条の畦畔を検出している。2条の畦畔の間隔は約20mを測り、これまでに検出された木の本道跡第1次調査地・八尾南道跡第3次調査地で検出した同時期の畦畔の間隔と近似しており、条里区割に合致した上土地利用が広範囲にわたって実施されていたことが窺える。

註1 八尾市教育委員会 『東川剛遺跡』 大阪府水産部洪水管布設工事に伴う埋蔵文化財調査：八尾市文化財調査報告3 1976

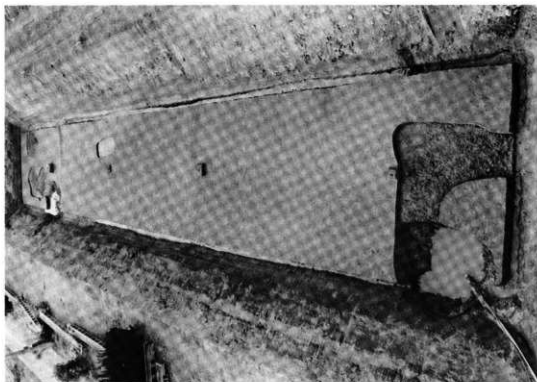
註2 (財)八尾市文化財調査研究会 『田井中遺跡：陸上自衛隊八尾駐屯地内浴場増築に伴う発掘調査概要』『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査 その成果と概要』 1983

註3 (財)八尾市文化財調査研究会 『田井中遺跡(第2次調査)』『昭和59年度事業概要報告』：(財)八尾市文化財調査研究会報告7 1985

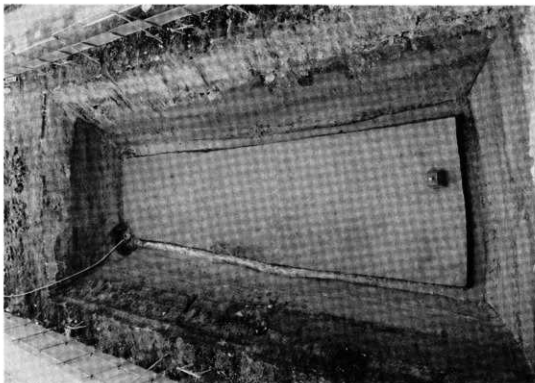
註4 大阪府教育委員会文化財保護課技師福田英人氏より御教示いただいた。



第1調査区第1調査面全景（東から）



第2調査区第1調査面全景（東から）



第3調査区第1調査面全景（東から）



第2調査区第1調査面地群（南から）

### Ⅲ その他の事業

#### 1 市内文化財の調査

久宝寺寺内町の調査 近畿大学助教授櫻井敏雄氏に委託

#### 2 燧山樓の公開 八尾市教育委員会からの委託業務

(1) 週2回の公開 毎週月曜日・木曜日午前10時～午後4時

計100日公開 見学者706人

#### (2) 催物のための公開

① 「八尾まつり」 八尾市主催

昭和60年9月15日 見学者117人

② 「第39回 秋季史跡めぐり」 八尾市自治推進課主催

昭和60年10月27日 見学者200人

#### (3) その他要請に応じての公開

① 「地域広報ビデオ撮影」 中河内府民センター主催

昭和60年4月8日・12月1日

② 「大阪府教育研究所連盟共同研究部会研修会」 八尾市教育委員会教育相談所

主催 昭和60年7月31日

③ 「第32回 八尾市民文化祭茶華道大会」 八尾市中央公民館主催

昭和60年11月6日～11日

#### 3 文化財普及事業

##### (1) 文化財講座

① 「百人一首のミステリー」 講師 林直道氏 (大阪市立大学名誉教授)

昭和60年7月27日・8月10日 山本労働会館

② 「まつり」 講師 上井久義氏 (関西大学教授)

昭和61年3月15日 山本労働会館

##### (2) チビッコ文化財夏期学級

昭和60年8月9日・10日・17日 参加者28人

日程および内容

8月9日 開講式・土器のはなし・土器づくり

10日 土器づくり

17日 土器焼き・閉講式



(3) 展示

「八尾を掘る」 一市内で発掘された埋蔵文化財一

昭和60年7月19日～8月3日 市民サービスコーナー 入場者1141人

主な展示内容 昭和59年度に実施した発掘調査のうち、おもな遺跡の紹介

(4) 発掘調査現場の見学会

東郷遺跡現地説明会 (第20次調査地—文化会館建設予定地)

昭和61年3月1日 見学者143人

4 図書の刊行

(1) 『昭和59年度事業概要報告』:(財)八尾市文化財調査研究会報告7 昭和60年4月発行 昭和59年度に実施したすべての事業を集録

(2) 『小阪合遺跡発掘調査概要』 一流域下水道等整備に伴う発掘調査—:(財)八尾市文化財調査研究会報告8 昭和61年3月発行 小阪合遺跡(第5次調査)の概要報告書

5 研究会・研修会・展示等の参加・協賛

(1) (財)大阪文化財センター主催 「大阪府下埋蔵文化財担当者研究会 第12回」に資料発表 「八尾市内における昭和59年度発掘調査概要」  
昭和60年6月9日 大阪市立中央青年センター

(2) (財)大阪文化財センター主催 「第3回 近畿地方埋蔵文化財担当者研究会」の協賛  
昭和60年10月19日・20日 大阪市中央公会堂

(3) 大阪府教育委員会主催 「大阪府の貨幣展」弓削遺跡・福万寺遺跡出土の貨幣を出品  
昭和60年12月10日～昭和61年3月23日 大阪府立泉北考古資料館



東郷遺跡第20次調査地現地説明会

## Ⅳ 受贈図書一覧

団 体 名	書 名
(財)東大阪市文化財協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高井田遺跡2・3次調査報告</li> <li>・(財)東大阪市文化財協会年報1983年度</li> <li>・悠る河内の歴史</li> <li>・(財)東大阪市文化財協会 紀要1</li> <li>・若江北遺跡</li> <li>・協会ニュースVol-1他1</li> <li>・法道寺</li> </ul>
(財)大阪文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪文化誌第18号</li> <li>・美園</li> <li>・府遺跡原景大津築国遺跡発掘調査1</li> <li>・同上Ⅱ</li> <li>・山賀(その1)</li> <li>・同上(その2)</li> <li>・同上(その3)</li> <li>・同上(その4)</li> <li>・友井東(その1)</li> <li>・同上(その2)</li> <li>・西岩田</li> <li>・亀井遺跡</li> <li>・同上Ⅱ</li> <li>・若江北</li> <li>・巨摩・若江北</li> <li>・佐家(その1)</li> <li>・同上(その2-1)</li> <li>・亀井</li> <li>・瓜生堂</li> <li>・亀井・塚山</li> <li>・巨摩・瓜生堂</li> <li>・長原</li> <li>・同上(その2)</li> <li>・新家(その2)</li> <li>・同上(その3)</li> <li>・第3回近畿地方埋蔵文化財担当研究会資料</li> <li>・大阪府下埋蔵文化財担当研究会(第13回)資料</li> <li>・大塚城跡Ⅱ</li> <li>・同上Ⅲ</li> <li>・成合寺</li> <li>・遺物整理から報告書作成まで</li> </ul>

(財)大阪府埋蔵文化財協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・向井池遺跡 (財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第1冊</li> <li>・別所遺跡 同上第2冊</li> <li>・西大路遺跡・今木迹寺遺跡発掘調査事業報告書</li> </ul>
(財)大阪市文化財協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別史跡 大阪城跡</li> </ul>
(財)枚方市文化財調査委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉東遺跡 枚方市文化財調査報告 第18集</li> <li>・田口(田口・出屋敷・両地区を含む)枚方市埋蔵文化財調査報告2</li> <li>・文化財ハンドブック 枚方の歴史と文化財</li> </ul>
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府埋蔵文化財情報第13号</li> <li>・同上第14号</li> <li>・同上第15号</li> <li>・同上第16号</li> <li>・同上第17号</li> </ul>
(財)長岡京市埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡京市埋蔵文化財調査報告書第2集</li> </ul>
(財)兵庫県文化協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前東代遺跡 播但有料自転車道建設にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅱ)</li> <li>・美久山42・43号墳 山陽自動車道開通保蔵文化財調査報告(Ⅲ)</li> </ul>
八尾市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八尾市文化財紀要Ⅰ</li> <li>・八尾市内遺跡 昭和59年度発掘調査報告書</li> </ul>
松原市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松原市遺跡発掘調査概観 昭和59年度</li> </ul>
高槻市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高槻市文化財調査概観 堀上郡高槻発掘調査概観9</li> <li>・56・57・58年度 高槻市文化財年報</li> </ul>
羽曳野市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河内飛鳥の里・はびきの</li> </ul>
河内長野市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河内長野市上原地区区画整理予定地内分布調査報告書</li> <li>・三日月遺跡調査概要Ⅰ</li> </ul>
泉佐野市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船岡山遺跡B地点発掘調査報告書</li> <li>・泉佐野市埋蔵文化財分布調査概要Ⅰ</li> <li>・築遺跡</li> <li>・泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅴ</li> </ul>
大阪府教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲川南遺跡発掘調査概要Ⅰ</li> <li>・同上Ⅱ</li> <li>・須賀・栗室古墳群</li> <li>・東門寺跡発掘調査概要報告書Ⅰ</li> <li>・同上Ⅱ</li> <li>・神並・西ノ辻・泉虎川遺跡発掘調査概要Ⅰ</li> </ul>

大阪府教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森A・B遺跡発掘調査概要Ⅰ</li> <li>・都市計画道路松原京大津線建設に伴う麓木下遺跡発掘調査概要Ⅰー原市墓木所在一</li> <li>・和気遺跡発掘調査概要報告書ー都市計画道路大阪岸和田南新線建設地内一</li> <li>・今木寺発掘調査概要ー岸和田市東人跡町所在</li> <li>・府道常磐・新寺線建設に伴う金岡遺跡発掘調査概要</li> <li>・東山遺跡試掘調査報告書ー大成芸術大学校内遺跡試掘調査一</li> <li>・一般国道309号線建設に伴う甲田南遺跡発掘調査概要報告書ー富田林市南甲田・若葉町他所在一</li> <li>・府宮松原天美住宅建設に伴う大和川今池遺跡発掘調査概要Ⅱー松原市天美西所在一</li> <li>・府道松原・京大津線建設に伴う万崎池遺跡発掘調査概要ー堺市太平寺所在一</li> <li>・大阪府文化財調査概要1984年度</li> <li>・住吉遺跡発掘調査概要</li> <li>・葛部池内遺跡試掘調査概要報告書Ⅱー府道磯ノ山南端建設に伴う試掘調査一</li> <li>・三田遺跡試掘調査概要ー府道磯ノ山直線建設工事に伴う試掘調査概要一</li> <li>・府中遺跡発掘調査概要ー府道と京中央線拡張工事に伴う発掘調査</li> <li>・大阪府文化財総合目録</li> </ul>
神戸市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和57年度 神戸市埋蔵文化財年報</li> <li>・昭和58年度 遺跡現地説明会資料</li> <li>・昭和59年度 同上</li> <li>・史跡 処女塚古墳</li> </ul>
宝塚市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山荘跡古墳発掘調査報告書 宝塚市文化財調査報告書第19集</li> </ul>
三田市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅰ</li> </ul>
兵庫県教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿自動車道舞鶴線 築塚古墳群3・4・5</li> </ul>
天理市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天理市埋蔵文化財調査概報 昭和58年・昭和59年度</li> <li>・岩室池古墳 平等坊・岩室遺跡 天理市埋蔵文化財調査報告書第2集</li> <li>・農工山城跡調査概要</li> <li>・萌哉遺跡ー縄文時代晩期遺跡の調査一 天理市埋蔵文化財調査報告書第1集</li> <li>・天理市のゆかり</li> <li>・布留遺跡範囲確認調査報告書</li> </ul>
京都府野田川町教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高波古墳発掘調査概報</li> </ul>
大山崎町教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町文化財調査報告書第4集</li> </ul>
八日市市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八日市市文化財調査報告書(6)</li> </ul>
金沢市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢市文化財紀要50号</li> <li>・同上52号</li> <li>・同上53号</li> <li>・同上54号</li> <li>・同上55号</li> </ul>

岡山県長船町教育委員会	・西谷遺跡-昭和58年度調査報告書に伴う発掘調査-
北海道七ノ国町教育委員会	・史跡「之國勝山館跡」
神奈川県立 埋蔵文化財センター	・神奈川県立埋蔵文化財センター年報4 ・山王山遺跡 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告8 ・増設院下やぐら群 同上9 ・千歳地蔵遺跡 同上10
奈良国立文化財研究所	・奈良国立文化財研究所年報1984 ・埋蔵文化財ニュース No52 ・同上 No53 ・同上 No54
石原町遺跡発掘調査団	・堺市石原町遺跡
大手前女子大学史学研究所 大坂城三の丸跡調査研究会	・大坂城三の丸跡Ⅰ 京橋口における発掘調査報告書 ・同上Ⅱ 大手前女子短期大学の校舎増築に伴う発掘調査報告書
柏原市歴史資料館	・明神山系遺跡分布調査概報Ⅰ ・柏原市埋蔵文化財発掘調査概報1984年度 ・文化財概報Ⅳ ・同上Ⅴ ・同上Ⅵ
大阪府立泉北考古資料館	・大阪府の銅器図録
北九州市立考古博物館	・須恵器のはじまり展 ・常設展示図録 ・発掘遺宇展-北九州市とその周辺-
早稲田大学	・早稲田大学所沢新校地内埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ ・同上Ⅱ ・同上Ⅲ
鹿児島大学 教養部考古学研究室	・考古学研究室報・NOA 第4号
鳥取大学附属図書館	・山陰地域研究(伝統文化部門分冊)
近畿大学	・山賀遺跡 近畿大学理工学部研究棟建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
高倉洋彰	・弥生時代小形埴輪について(承前)「考古学雑誌」第70巻第3号抜刷

(財)八尾市文化財調査研究会報告 9

昭和60年度事業概要報告

発行 昭和61年 4月

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会

〒581 大淑野八尾市清水町1丁目2番1号

0729-94-4700

印刷 明新印刷株式会社

(表紙 レザック66<260kg>  
本文 アート <110kg>  
見返し 上質 <110kg>)

